

2020年4月5日(日)朝10:10~ 棕櫚の日・受難節第6、役員会等  
4月第1聖餐総員公同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：柔軟な主がロバの子に乗られる (7; ゼカリヤ9:9)

聖書：マルコ 11章1～11節

＜口語訳＞

新約聖書70頁

マルコ 11章1～11節

＜新共同訳＞

新約聖書83～84頁

マルコ 11章1～11節

＜新改訳第3版＞

新約聖書88～89頁

マルコ 11章1～11節＜塚本訳＞

新約聖書43～44頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

## 序論；

- ◇マルコ書は、マルコが、ユダヤ人の以外の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マルコ11章節は、神の御子イエス・キリスト様が、ご自身を密かに救い主(メシヤ)として示された箇所です。
- ◇本日のマルコ11章1～11節は、神の御子イエス・キリスト様が、ゼカリヤ書9:9で預言されていた救い主(メシヤ)を示すしるしで、敵対するユダヤ人の救い主(メシヤ)像とは異なるものでした。  
⇒マルコは、神の御子イエス・キリスト様を罪人の救いのために仕える、しもべとして描いています。
- ⇒多くの人々が、当時華やかだったエルサレムを目指していたのに御子イエス・キリスト様は、「ベテハゲとベタニヤ」で、「救い主(メシヤ)」を当時王が乗られて驢馬に乗られました。  
⇒当時の指導者は、驢馬に乗る姿から正しい、柔軟なお方を排斥したのです。

## 本論；

◇本日、マルコ11章1～11節から主の使信に  
思い・心をとめます。

◆マルコ11章1～11節；マルコは、神の御子  
イエス・キリスト様を神のしもべとして語って  
います。

◇1～11節；塚本訳◆都入り

「1 一同がエルサレムの近く、(すなわち)オリ  
ブ山の中腹にあるベテパゲとベタニヤとに  
来ると、イエスはこう言って弟子を二人使に  
やられる、

2 「あの向いの村まで行ってきなさい。村に入  
るとすぐ、まだだれも乗らない一匹の子驥  
馬がつないでいるのが見える。それを解い  
て、引いてきてもらいたい。

3 もし『何をするのか』と言う者があつたら、『主  
がお入用です。すぐここにお返しになりま  
す』と言えばよろしい。」

4 二人が行って見ると、はたして(ある家の)外  
の通りに向いた戸に、子驥馬がつないであ  
つたので、それを解いた。

5 するとそこに立っていた人たちが「子驥馬を

解いて、何をするのか」と言ったので、

- 6 イエスに言われたとおりにこたえると、許してくれた。
- 7 二人が子驥馬をイエスの所に引いてきて、自分たちの着物をその上にかけると、イエスはそれに乗られた。
- 8 大勢の者は着物を道に敷いた。野原から小枝を切ってきて(て敷い)た者もあった。
- 9 (イエスの)前に行く者もあとについて行く者も、叫んだ。——『ホサナ！、主の御名にて来られる方に祝福あれ。』
- 10 来たるわれらの父ダビデの国に祝福あれ。いと高き所に『ホサナ！』
- 11 やがてエルサレムについて宮に入られた。隅なく見てまわされたのち、時間もはやおそくなつたので、十二人を連れてベタニヤに出てゆかれた。」と、**マルコ**は語っています。

◇1～6節;「一同がエルサレムの近く、(すなわち)オリブ山の中腹にあるベテパゲとベタニヤとに来ると、イエスはこう言って弟子を二人使にやられる(1)」「あの向いの村まで行って

きなさい。村に入るとすぐ、まだだれも乗らない一匹の子驥馬がつないであるのが見える。それを解いて、引いてきてもらいたい(2)』、「もし『何をするのか』と言う者があつたら、『主がお入用です。すぐここにお返しになります』と言えばよろしい(3)』。「二人が行って見ると、はたして(ある家の)外の通りに向いた戸に、子驥馬がつないであつたので、それを解いた(4)』、「するとそこに立っていた人たちが「子驥馬を解いて、何をするのか」と言ったので(5)』、「イエスに言われたとおりにこたえると、許してくれた(6)」と、「『何をするのか』と言う者があつたら、『**主がお入用です**。すぐここにお返しになります』と言えばよろしい」が鍵句です。

- ⇒マルコは、イエス・キリスト様が**「主がお入り用なのです」**と言われてことに注目しています。
- ⇒「**主のご用に用いられる人**」は、今も現実で、正しさと柔軟は、「**主のしもべ**」に不可欠です。
- ◇7～11節；「二人が子驥馬をイエスの所に引いてきて、自分たちの着物をその上にかけると、イエスはそれに乗られた(7)」、「大勢

の者は着物を道に敷いた。野原から小枝を切ってき(て敷い)た者もあった(8)」、「(イエスの)前に行く者もあとについて行く者も、叫んだ。——『ホサナ！、主の御名にて来られる方に祝福あれ。』(9)」「来たるわれらの父ダビデの国に祝福あれ。いと高き所に『ホサナ！』(10)」「やがてエルサレムにつ形いって宮に入られた。隅なく見てまわれたのち、時間もはやおそくなつたので、十二人を連れてベタニヤに出てゆかれた(11)」と、「**神の御子イエス・キリスト様**」は、「来るべき方」として、十字架の死を覚悟で、「敵対者が待ち受けるエルサレム」へと入城されたのです。

⇒「**神の御子イエス・キリスト様**」は、人々が**救い主(メシヤ)**を歓待するのを敢えて受け下さったのです。

⇒「ホサナ」は、「どうぞ、来て下さい」という意味ですが、本来、紀元前163年、ユダ・マカベausが、アンティコスに勝利し、排斥した時、勝利者を記念したものです。

⇒「**神の御子イエス・キリスト様**」は、ローマと武力で解放するためでなく、罪からの解放者として、真の王として、群衆の詩篇118篇の勝利の詩を受けて下さったのです。

⇒「**神の御子イエス・キリスト様**」、①愛の訴えをなさった、②ベタニヤに退き、父に祈り、来るべき日に備え、③弟子たちと地上最後の日を過ごし、福音を語り尽くして下さったのです。

⇒「**神の国とその義を求めなさい**」の命令の確認と福音の委託です(**マタイ6:33**)。

⇒「わたしは、決して、あなたを見放さず、あなたを捨てない」(**ヘブル13:5**)主なので、いつまでもともにいて下さいます。

## 結論：

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
  - ◇**マルコ書**は、マルコが、ユダヤ人の以外の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
  - ◇**マルコ11章節**は、**神の御子イエス・キリスト様**が、ご自身を密かに**救い主(メシヤ)**として示された箇所です。
  - ◇本日の**マルコ11章1～11節**は、**神の御子イエス・キリスト様**が、ゼカリヤ書9:9で預言されていた**救い主(メシヤ)**を示すしるしで、敵対する**ユダヤ人の救い主(メシヤ)**像とは異なるものでした。
- ⇒**マルコ**は、**神の御子イエス・キリスト様**を罪人の救いのために仕える、しもべとして描いています。
- ⇒多くの人々が、当時華やかだったエルサレムを目指していたのに**御子イエス・キリスト様**は、「**ベテハゲとベタニヤ**」で、「**救い主(メシヤ)**」を当時王が**驢馬**に乗られました。
- ⇒**当時の指導者**は、驢馬に乗る姿から正しい、柔軟なお方を排斥したのです。

⇒神の御子イエス・キリスト様は、救い主（メシヤ）として、「神の国とその義」の神の僕が、「『主がお入用です』」。

⇒「やがてエルサレムについて宮に入られた。隅なく見てまわされたのち、時間もはやおそくなつたので、十二人を連れてベタニヤに出てゆかれた」と、①ベタニヤの祈り、②主との交わり、③託された福音に生きることが求められています。

⇒【新改訳2017】ヤコブ 3:13 あなたがたのうちで、知恵があり、分別のある人はだれでしょうか。その人はその知恵にふさわしい柔和な行いを、立派な生き方によって示しなさい。